

## ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部理学療法学科

名前 加藤 士雄

作成日 2021年3月9日

更新日 2024年2月26日

### 【責任】

保健医療学部理学療法学科に所属し専門科目であるリハビリテーション工学や運動学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は運動学に関連する科目（運動学・運動学演習など）やリハビリテーション工学（学部・大学院）、理学療法に関する科目（基礎評価学など）を担当している。また学部/大学院ゼミ生への研究指導や学部4年生に対する国家試験対策や就職支援活動、受験生などへ向けた入試広報活動を行っている。

### 【理念】

私は生涯を通して1つの職種に就くことだけが正解ではないと考えている。人生100年時代を迎えるにあたり、これまでのように1つの病院や企業でキャリアを終わらせるのではなく、多くの分野を渡り歩くことで知識・経験を積み重ねていくのが当たり前のことになる。そして、それが自身のアイデンティティとなり、次のより良いキャリアに繋がっていくことが予想される。このような時代を生き抜くために、これからの若者には広い視野を持って、主体的に取り組む姿勢が求められることになる。

このようなことから、学生には「義務として学ぶ」のではなく、「生涯を通じて主体的に学び続ける」ことができる人材になって欲しい。そして世界には自分自身が知らないことや経験したこともない未知の領域があることを知り、その中から興味・関心のあることを探し続けて学び続け、自分自身が活躍できるフィールドを広く持って欲しい。

このような人材になれば、自分の前に現れた疑問・課題を自分の力で解決できる力を身につけることができ、どのような時代でも活躍できると考える。

### 【方針・方法】

上記理念を実現するため、学生個人の特徴に併せて、以下に示す方針を掲げた教育活動を実施していく。

#### [方針1：情報を取捨選択する力を身につける]

- 学生の多くは教科書をはじめとする書籍に載っていることは全て正しいと考えている場合が多い。しかし、実際には「十分に検証されたもの（覚えるべき知識）」と「まだ検証過程であるもの」が記述されている。そこで、学生には同じ分野を取り扱っている複数の書籍を複数読んでもらい、その内容に違いがあることを知ってもらう。このようなプロセスを踏むことで、記述してある内容を検証する習慣を身につけてもらいたい。

[方針2：わからないことを自分で調べて身につけてもらう]

- 与えられた課題に対して、まず自分で考え、生じた疑問を書籍や文献などから探して知識を補強しながら考察する習慣を身につけてもらう。
- 基礎的な知識を用いて可能な限り講義や研究指導では解説していくので、その思考プロセスを学んでもらう。

[方針3：相手に正確に伝える力を身につける]

- レポートや口頭試問を介して、因果関係を論理立てて説明してもらう。論理が成り立っていないところは適宜指摘する。
- 自分の考えの裏付けをする習慣を身につけてもらうために、文献による引用などを求める。

[方針4：分野を限定せずに知識や経験を伝える]

- 講義を介して、様々な知識/経験が別分野にも活かしている事例を紹介する。具体的には、工学をリハビリテーションに活用している研究を紹介していく。

#### 【成果・評価】

- 学生の進路調査（卒業後の追跡調査）
- 授業アンケート
- 実習アンケート
- 卒後アンケート
- 国家試験合格率 100%
- 就職率 100%

#### 【目標】

- 短期目標
  - 学生とのディスカッションの機会を増やす。
  - 学生の視野を広げられるように、様々な分野で活躍する人との交流の場を設ける
  - 在学中の卒業研究/大学院研究から学会発表・論文発表を増やす。
- 長期目標
  - 卒業生の研究発表を増やす。
  - 病院や施設以外に勤務している学生を増やす。